



家庭の同行^{どうぎょう} 2

〜ひき出されてゆく生きる力〜

やまの茂吉(和田重良)

- 穴のあきそうな心を「充たしてくれる」もの
- つないだ手は離さない「信じている」こと
- あそこに帰れば迎えてくれること
- 「あんしんできる」こと

雰囲気をつくる

甘さ、やさしさ

「教育」は何より「雰囲気」が大切なのです。学校も教室も家庭も雰囲気の悪いところでは居ごちが悪いだけでなく、まともに育つことさえできません。逆にとんでもないものが育ってしまうのです。

悪い雰囲気を作るのは、「親の思い」で子どもを枠にはめようとするところからはじまるものと、ダラシなく何の方針も持てないところからはじまるものがあります。

子どもに対してだけではありません。対夫、対妻、対お年寄、など悪い雰囲気を作るものは強引な枠はめとダラシない無方針のどちらかです。

国の悪い雰囲気とも似ていますね。例えばいくつかの例を挙げますと、「甘さ」と「やさしさ」をハキ違えて、子どもが思春期になつて雰囲気がどんどん悪くなってしまふことがあります。

「やさしく」しているつもりが、「甘さ」が出てしまふのは「自分を甘やかす親」であることが原因であるのです。

こういう場合、親の方が子どもの要求に対して「取り引き」を使つたりしています。子どもも「親は取り引きに応じてくるんだ」と学習してしまい、「約束」などを上手に使つてきてケジメのない「甘さ」が出てしまふのです。

和田重正言葉抄

自信の値打

自信をもって子どもの教育に当たっている人ほど子どもを大きく傷つけていることが多いものだ。

それに反して、自信のなさを自ら嘆いている人の子は案外健康やかに育っているのが普通だ。これはどういふことだろう。

自信は傲慢に、嘆きは謙虚に通ずる。自信は劣等感と同様自己評価である。これほどアテにならないものはない。頼りになるのは自分の知識や力量ではない。

子どもと自分のいのちの智慧のすばらしさなのだ。自分の僅かな才覚で子どもに自信を与えようとして子どもをますます硬直させ苦

ワキが甘いと言う言葉がありますが、相撲などの他、政治家や実業家の失敗などの時に使います。ワキが甘いとつけ込まれるという例えに使う言葉です。

子育てや家族のことも同じようなことが言えるのです。ワキが甘いと結果がまずくなります。

ただ、家庭という所はわざとワキを甘くしてホンワカムードを作るといふことも大切なことになり得ます。そこが「やさしさ」になるのです。あたたかく見守ることになります。

厳しさ・明るさ

「厳しさ」という雰囲気も「甘さ」「やさしさ」に通ずるものがあります。自分に甘ければ人に厳しくなつたりしますが、それは本当の厳しさではありません。本当の厳しさはやさしさでもあるはずで、「自分の意に沿わないものは受け容れられない」といった小さな枠で厳しさを表現していたら育つものも育たなくなります。

同時に「明るさ」を保つてゆくことが、「雰囲気」を作る大きな条件です。

暗いより明るい方がいいに決まっているように思うのですが、案外、知らず知らず暗い方を向いてしまうという人も多いのです。気がついたら暗くなつてしまつてい

暗くなつてい

暗くなつてい

積極性・落ち着き

心に張りがある時は何かしらに積極的になれるということ。ところが、積極的に

落ち着いた雰囲気を作ることは日常生活のポイントです。人に動かされるのではなく自分で考える落ち着きが必要です。落ち着いた雰囲気の中に張りのあること、それはどんな時でしょうか。

暗いより明るい方がいいに決まっているように思うのですが、案外、知らず知らず暗い方を向いてしま

暗くなつてい

暗くなつてい

知的な空気

さらにもう一つ雰囲気づくりを要求すれば、学校でも教室でも家庭でも、実は幼稚園や幼児期の生活でも、とても重要なものが「知的な空気」だと思つて

「知的な空気」とは

「くだけかけ会」で提唱している「よかつたね」(全肯定)「よく来たね」(全受容)というところから引き出されてくるものなのです。勉強にしても仕事にしてもスポーツにしても趣味にしても、こと生活に関するものは、遠まわりのようでも「あんしん」と大きな「満足」を目ざすだけで落ち着いた積極性が確保されるものなのです。

「満足」を目ざすだけで落ち着いた積極性が確保されるものなのです。

「知的な空気」は旺盛な探究心から出て来るのです。

幼児期はもちろん「あそび」が知的空気をもたらすのですから、様々な種類の「あそび」に挑戦してみるのです。それを知識教育に置きかえるといつぱんに「知的な空気」は損なわれてしまうのですから面白いですね。

「知的な空気」は旺盛な探究心から出て来るのです。

幼児期はも

幼児期はも

幼児期はも

幼児期はも

幼児期はも